

臨床腫瘍多職種研修会開催報告

山口大学医学部附属病院
腫瘍センター事務局

令和7年2月20日（木）に、山口大学医学部附属病院腫瘍センター主催で、臨床腫瘍多職種研修会が、山口大学医学部霜仁会館で開催されました。本研修は、院内のがん医療に携わる医師・薬剤師・看護師・MSW等の医療従事者を対象とした臨床腫瘍に関する研修会で、多職種58名の参加がありました。

本院腫瘍センターの井岡准教授の司会のもと、「症状緩和だけではない在宅緩和ケアの役割～患者と家族の思いをどうつなぐか～」と題して、宇部協立病院副院長 立石彰男先生にご講演いただきました。

研修会では、在宅移行について、若年がん患者さんの症例を通して、援助的なコミュニケーションの技法等を詳しくご講演いただきました。参加者からは、「実例がありイメージがしやすかった」、「終末期だからこそ、本音で話し合える場を作ることの重要性を感じた」、「実際の会話を聞くことが出来て、とても勉強になった」「たくさんの患者さんを診てこられた中での事例の話は、説得力があり勉強させていただきました」など多くの意見が寄せられ、大変有意義な研修会となりました。

腫瘍センターでは、これからも医療従事者に向けた様々な研修会を計画していきたいと思いますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

《研修会風景》

